

商店街が運営する市街地循環バス「まちバス」【高松市】

高松丸亀町商店街振興組合

TEL087-821-1651

1. 丸亀町商店街の概要

香川県の県庁所在地である高松市は、人口約41万人（平成18年9月現在）の地方都市です。国の出先機関なども多く、いわゆる支店経済の都市として、また四国の玄関として発展してきました。

また、丸亀町は開町以来、400年余りの歴史を誇る町であり、「高松丸亀町商店街」は、高松市の中心商業地区の真ん中に位置する全長470mの商店街です。丸亀町商店街には、有名ブランドを扱うブティックが多く、流行の先端を行くファッション性の高い商店街として、高松の商店街をリードしてきました。

2. 丸亀町商店街のまちづくり

丸亀町商店街は早くから先進的な取り組みをしてきました。昭和47年には、モータリゼーションの時代を見据え、商店街が株式会社を設立し、町営駐車場を建設・運営しています。また、商店街の集客や魅力化に直接かかわる取組だけでなく、コミュニティ施設の建設や病院の誘致など、まちなか居住の促進にかかわるようなまちづくりにも積極的に取り組んできました。

丸亀町商店街では、「人が住み、人が集うまち」を目指し、構想から約20年をかけて市街地再開発事業に取り組んできました。全長470mの商店街をA～Gの7つの「街区」にゾーニングし、商店街の一部だけではなく、すべての街区を対象とした再開発を段階的に行っています。この取組は、長らく商店街と共存・共栄してきた高松三越の協力を得ながら、民間主導で全国初となる「土地と建物を分離した商店街マネジメント」を実現したのものとして大きな注目を集めています。



図 丸亀町壱番街（A街区）の写真

3. 商店街が運営する市街地循環バス「まちバス」導入の背景

高松市では、中心市街地の活性化を主たる目的として、平成13年から、高松駅と中心市街地を循環する「市街地循環バス」の試験運行を開始しました。

丸亀町商店街は、鉄道の駅から距離があることから、交通アクセスの問題が大きな課題であるとの認識を古くから持ってきました。駐車場整備に力を入れてきたのも、「鉄道のターミナルが無理なら自動車のターミナルを」との思いが強かったことが大きな要因です。

そのため、丸亀町商店街は、四国の玄関である高松駅をダイレクトに結ぶ市街地循環バスが本格的に導入されることに非常に大きな期待を寄せていました。市の実証運行は3年間継続されましたが、利用者が少なく、市の事業として継続することの妥当性が十分に打ち出せなかったことなどから、継続できないこととなりました。

丸亀町商店街ではこの状況を受け、商店街独自の事業として市街地循環バスを運行できないか、検討を開始しました。当時の商店街振興組合のリーダーはひとときわ思いが強く、自分の会社にあったマイクロバスを寄付しています。

4. 商店街が運営する市街地循環バス「まちバス」の概要

高松丸亀町商店街振興組合では、平成 17 年 11 月から市街地循環バスを運行しています。

JR高松駅と丸亀町商店街を循環していますが、途中に県立ミュージアムと高松三越前にもバス停を設置しています。

運賃は 100 円ですが、商店街や高松三越の発行する駐車券でも利用することができます。

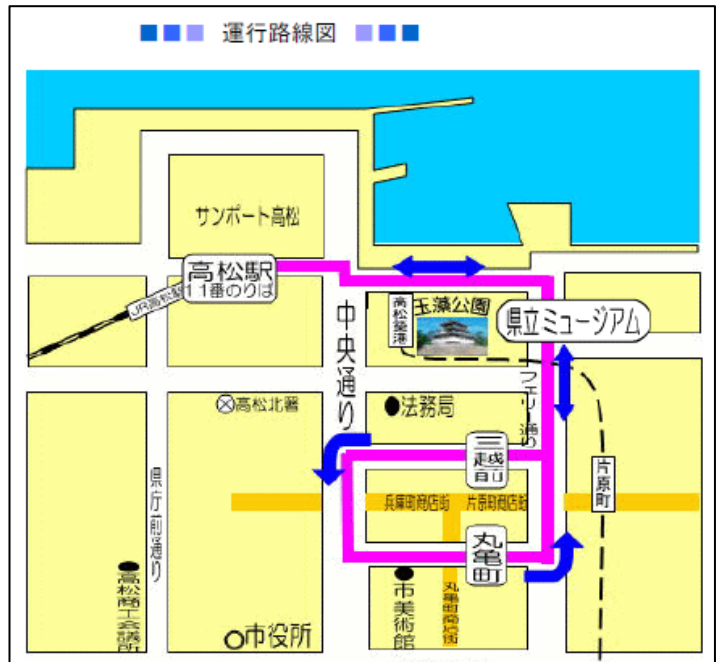
便数は 1 日 30 便となっており、20 分間隔の分かりやすいパターンダイヤを採用しています。



図 「まちバス」の写真

表 「まちバス」の概要

運営主体	高松丸亀町商店街振興組合
運行事業者	ことでんバス
運行開始年	平成 17 年 11 月
ルート	JR 高松駅 11 番(サンポート高松)→ 県立ミュージアム→三越前→丸亀 町→県立ミュージアム→JR 高松駅 11 番 の片方向循環路線
運賃	100 円(駐車券やIruca カードでの 支払いも可)
運行時間	高松駅 9 時 10 分発～18 時 50 分発
運行便数	1 日 30 便(20 分間隔)



5. 市街地循環バス「まちバス」運営のポイント

「まちバス」は行政からの補助を一切受けることなく、地元企業のご協力を得ながら、丸亀町商店街振興組合が運営しています。このような商店街独自のバス運営が実現できたのは、主に以下の3点のポイントがあると考えています。

①高松三越からバス停設置及び協賛金の提供が得られたこと

- ・丸亀町商店街と高松三越はこれまでも共存共栄であり、また、三越も交通アクセスを改善したいと考えていました。このため、「まちバス」が丸亀町商店街の他に三越を経由すること、その対価として協賛金を提供して頂くことができました。

②地元企業からバスへの広告掲載の協力が得られたこと

- ・地元の電力会社や複数の銀行からバス運行にご理解を頂くことができ、「まちバス」にこれら企業の広告を掲載し、広告料を頂くことができました。

③「買い物のお客さんに便利である」ことにターゲットを絞った運行計画を立てたこと

- ・敢えて利用者の多い通勤時間帯でなく、買い物のお客さんが便利な運行時間帯に絞り、かつ高松駅と商店街を結ぶ短い循環路線としたことで効率化され、運行委託料を少なくすることができました。